

●症状の解説

【変性部位による症状】

1 大脳皮質症候（変性部位：大脳皮質 特に前頭葉と頭頂葉）

- ・肢節運動失行：指先を使った細かい動作ができない（巧緻性の低下）
- ・観念運動失行：指示されたジェスチャー（gesture「身振りや手振り」）ができない
- ・他人の手徴候：一方の手が本人の意思とは関係なく他人の手のように勝手に動く
- ・拮抗性失行：両手の意図的な動作に目的と反対の動作や無関係な動作を行ってしまう現象。協調した動作ができない

2 皮質性感覚障害

- ・二点識別覚：皮膚の2点を刺激してそれぞれが別の刺激と認識できない
 - ・触覚：手掌に数字や文字を書いて判読できない
 - ・立体覚：目を閉じて消しゴムや鉛筆、乾電池などに触ってその性状が分からない
 - ・位置覚：自分の身体のあちこちを軽く触れて、触られた部位に反対側の手の指で正確に触ることができない
 - ・重量覚：10円玉と乾電池の重さ差が判別できない
 - ・皮質性消去：左右対称的な部位に別々に触ればどちらも分かるが、両方同時に触れられると、片方に触れたことしか分からない
- #### 3 大脳基底核症候（変性部位：大脳基底核 黒質、淡蒼球、視床下核）
- ・パーキンソニズム：筋強剛、無動、姿勢保持障害など
 - ・安静時振戦はまれ
 - ・その他：不随意運動（ジストニアなど）、認知機能障害

●鍼灸治療における選穴

基本穴として脳戸、百会、神庭、四神聡穴、曲鬢、承靈、脳空、風池、関元、足三里、陰陵泉、太溪、太衝、四肢末端の井穴から選穴する
個人の体質、症状に対応する穴を加味する

●指圧按摩マッサージ治療の併用

頭部の督脈や胆経、四肢の指の経穴や末端の井穴を按摩することで脳に刺激を与え、大脳皮質や脳回路を活性化させ、手技により筋肉の緊張や痛みを軽減し、気持ちの良い刺激がストレスを解消する

●リハビリの併用

脳疾患の治療には、リハビリが欠かせない存在です

欧米の脳神経学者の研究で、有酸素運動が心肺機能の向上、脳の BDNF(Brain Derived Neurotrophic Factor「脳由来神経栄養因子」)や脳神経伝達物質(セロトニン、ドパミン等)分泌の促進、脳回路を活性化すると発表されています

■手振り歩行運動

有酸素運動によって心肺機能の向上、脳の BDNF (Brain Derived Neurotrophic Factor「脳由来 神経栄養因子」) や脳神経伝達物質 (セロトニン、ドパミン等) 分泌の促進、脳回路の活性化は、 欧米の脳神経学者の研究で明らかになっている。

■歩行訓練 (歩行不能の場合)

歩行機能の維持、或いは改善することを目指す

立つ～歩行まで五段階 (立つ、手振り運動、足踏み運動、手足協調運動、手振り歩行)、 15ステップで練習しながら歩行機能の回復を評価する

■指の体操：両手指が機敏に動く訓練と左右両肢 (手足) 指の協調性訓練

■気功「八段筋※」の練習

※「八段筋」は、今から 800 年前に中国で発祥された古典的な気功で、気と呼ばれる体内エネルギーを活性化することにより胃腸の消化・吸収と肺の新陳代謝を促進し、血液の循環を整え、心身の 疲労を癒し、腎と腰を強くし、人体組織・細胞に活力を与え、病気の予防、治療、寿命を伸ばす 効果があると中国の医療機関の研究で明らかにした

■音楽を伴う自由運動

気分の高揚、ストレスの解消、うつ状態の軽減、リズム感の養い、バランスの改善